

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-134	14-314	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
<p>Mobile phone brief intervention applications for risky alcohol use among university students: a randomized controlled study.</p> <p>大学生の間の危険なアルコール摂取へのスマートフォンのアプリケーションによる短期介入:無作為化試験。</p>		
執筆者		
Gajecki M, Berman AH, Sinadinovic K, Rosendahl I, Andersson C.		
掲載誌		
Addict Sci Clin Pract. 2014 Jul 2;9:11. doi: 10.1186/1940-0640-9-11.		
キーワード	PMID	
大学生飲酒、スマートフォン、インターネット、アプリケーション	24985342	
要旨		
<p>背景: インターネットによる短期介入は、大学生のアルコール摂取を減らすことが示された。スウェーデンの大学生の間で問題のアルコール摂取を減らすことを目的として、本研究は、パーティーにおいてアルコールを選択する2つのスマートフォンのアプリケーション(アプリ)の効果を検査した。</p> <p>方法: 学生は、2つの大学に学生自治委員会メンバーに送られる電子メールを経て試験に入れられた。インフォームドコンセントをして、スマートフォンを持っていて、Alcohol Use Disorders Identification Test(AUDIT)によって危険なアルコール消費を示した学生は、3つの群にランダム化された。グループ1はスウェーデンの政府のアルコールモノポリーのアプリ(Promillekoll)にアクセスし、リアルタイムに推定された血中アルコール濃度(eBAC)を提供した。グループ2はウェブ・ベースのアプリにアクセスした。そして、PartyPlanner(研究群によって開発される)が計画と引き続いての機能でリアルタイム eBAC 算出を提供した;そして、Group 3参加者は、対照であった。</p> <p>追跡調査は、7週に行われた。</p> <p>結果: 試験への関与を呼びかけた 28574人の学生の中で、4823人は接続することに同意した; 415人は不完全なデータのため除外され、1932人はランダム化のために適格基準を満たした。</p> <p>摩擦は、22.7-39.3パーセント(より重い飲用者の間でより高く、グループ2で最も高い)であった。自己申告のアプリ使用は、グループ2(41%)に比較して、グループ1(74%)でより高かった。</p> <p>プロトコル当たりの分析は1つの有意の群による時間相互作用だけを明らかにした。ここで、グループ1参加者は対照(p=0.001)と比較してそれらの飲酒場合の頻度を増加させた。性による第2の分析は、女性の間でなく、グループ1の男性の間で、1週(p=0.001)当たりの飲む頻度で有意差を示した。すべての参加者の間で、29パーセントは、9杯(女性)と14杯(男性)標準グラスの推奨された毎週の飲酒レベル以上と飲酒への高リスクを示した。</p> <p>結論: スマートフォンアプリは、多数の大学生が利用できる短期介入をすることができる。しかしながら、eBAC 算出を使用するアプリは大学生の間でアルコール消費に影響を及ぼすようではなかった、そして、1つのアプリは男性の間で負の影響につながる可能性があった。</p> <p>将来の研究で行うべきことは:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 使用者が使用し続けることを増やす方法を探査する、 2) 付加的な構成要素の評価のために専門の処置を容易にするアプリを含む、 3) アプリ内容をあらゆる性別の意見の相違に適応させる効果を探査する、 4) 高リスク使用者には更に別の介入を提供すること。 		